

【手話と言葉で】

「皆さん、こんにちは。私の名前は、優心です。私は、友達と楽しく過ごすことが大好きです。」

友達と冗談を言って笑い合い、大きな声で励ましながら部活動に励み、一日の出来事を家族と話す。これが、わたしにとってかけがえのない日常です。

皆さんは考えたことがありますか。目や耳が不自由な人たちは、私たちが過ごすこんな日常をどうやって過ごしているのでしょうか。「耳の不自由な人とも、手話でつながり、楽しみたい。」充実した日々があったからこそ、ふと浮かんだこと。これが、手話を学び始めたきっかけです。

まず私は、図書室の本で手話の挨拶を学びました。さらに詳しい手話は、手話事典を買い、インターネットで学びました。手の動きがわからなかったり、知りたい単語がすぐ見つからなかったり、苦戦しました。数も多く、覚えたつもりでも次の日には忘れてしまう……。使われる手話は、国や地方によっても異なります。

それでも、少しずつわかる単語が増えてきました。テレビの、手話通訳の人が使っている単語がわかるたび、うれしさが増していきました。初めて見る表現は辞典で調べ、自分の中に吸収していきました。

また、私たちは学校の防災学習で災害時の対応について考えました。避難所に指定されている唐丹中体育館には、どんな人が避難してくるかわかりません。その取り組みから、どんな立場の人でも安心できる環境でなければいけないと感じました。そこで私たちは、地域の人を想定した避難に加え、英語、ドイツ語、ベトナム語、中国語の多言語での対応も考えました。さらに、障がいを抱えた人も、安心できる環境が必要になってきます。

【手話のみ】

「助けてください。倒れている人がいます。私は救急車を呼べません。」

もし、このように手話で話しかけられたら、皆さんはどうしますか。必死で助けを求める手話が伝わらない。そんなもどかしさを日々感じている人がたくさんいます。

そう考えたとき、人と話すという当たり前のことに、“どんな人とも”を付け加えると、大きな壁があることに気付きました。英語を習っていても、英会話は難しいと感じている人も多いことでしょう。ましてや手話で冗談を言い合い、楽しさを分かち合うなんて……。

本当にそうでしょうか。手話ができないと、多くの言語を身に付けないと、耳の不自由な人や外国の人とつながることはできないのでしょうか。それは違うはずです。

手話は指先だけでなく、伝えようとする表情、相手をわかろうとする心でようやく伝わると私は思っています。つながろうとする心があれば、どんな方法でも会話は成り立つはずです。

つながろうとする心、相手をわかろうとする心があれば、世の中はもっと住みよくなるのではないのでしょうか。人とのつながりが希薄になっている今の社会にこそ必要なことです。

どんな人とも心の中から笑い合うことができれば、ネットの誹謗中傷、いじめ、さまざまな差別がなくなるのは夢ではありません。きっと、変えられる世の中がもっともっと広がっている。

「伝えたいことが相手に伝わらない。」私は少しでもこのもどかしさを消せるように、これからも“つながろうとする心”を大切に、手話を学んでいきます。

【手話と言葉で】

「ありがとうございました。」